

## I. 調査結果概要

### 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、一部に足踏み感がみられるものの、持ち直しの動きがみられる。先行きについては改善の動きがみられる。

- 経営者の景況感DIは、▲40.0と、前期比で3.1ポイント増加し、2期ぶりに改善した。  
業種別では、製造業は3期ぶりに改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。
- 景況感の先行きDIは▲10.2と、前期比で5.9ポイント増加し、2期ぶりに改善した。
- 売上げDI及び資金繰りDIは2期ぶりに悪化し、採算DIは2期連続で改善した。
- 設備投資の実施率は23.4%で、2期ぶりに増加した。
- 来期については、売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは当期DIより改善する見通しである。  
また、設備投資の実施率については当期実施率より減少する見通しとなっている。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和6年4～6月期、「当期」：令和6年7～9月期、「来期(先行き)」：令和6年10～12月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

#### (1) 景況感

自社業界の景況感DIは▲40.0（前期比+3.1）となり、2期ぶりに改善した。  
業種別にみると、製造業は3期ぶりに改善し、非製造業は2期ぶりに改善した。

#### ・景況感DIの推移

	当 期 (R6.7-9)	前 期 (R6.4-6)	前年同期 (R5.7-9)
全 体	▲40.0	▲43.1	▲40.8
製 造 業	▲46.3	▲50.8	▲47.3
非製造業	▲35.5	▲37.4	▲36.0

#### (2) 来期の見通し

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は9.2%（前期比+1.5）、  
「悪い方向に向かう」とみる企業は19.4%（前期比▲4.4）だった。  
先行きDIは▲10.2（前期比+5.9）と、2期ぶりに改善した。

#### ・来期の見通し

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R6.10-12)
全 体	9.2%	19.4%	▲10.2
製 造 業	8.5%	20.1%	▲11.6
非製造業	9.7%	18.9%	▲9.2

## 2 売上げについて

売上げDIは▲19.6（前期比▲1.1）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。  
業種別にみると、製造業は2期連続改善し、非製造業は2期ぶりに悪化した。  
来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIより改善する見通しである。

### ・売上げDIの推移

	当 期 (R6.7-9)	前 期 (R6.4-6)	前年同期 (R5.7-9)	来期見通し (R6.10-12)
全 体	▲19.6	▲18.5	▲17.8	▲2.4
製 造 業	▲22.1	▲23.4	▲19.4	▲1.0
非製造業	▲17.8	▲14.9	▲16.6	▲3.4

## 3 資金繰りについて

資金繰りDIは▲19.9（前期比▲1.4）となり、2期ぶりに悪化した。来期は改善する見通し。  
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。  
来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りDIより改善する見通しである。

### ・資金繰りDIの推移

	当 期 (R6.7-9)	前 期 (R6.4-6)	前年同期 (R5.7-9)	来期見通し (R6.10-12)
全 体	▲19.9	▲18.5	▲21.8	▲11.6
製 造 業	▲24.1	▲23.5	▲24.4	▲10.7
非製造業	▲16.9	▲14.7	▲19.8	▲12.3

## 4 採算について

採算DIは▲25.5（前期比+1.2）となり、2期連続改善した。来期は改善する見通し。  
業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期連続改善した。  
来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算DIより改善する見通しである。

### ・採算DIの推移

	当 期 (R6.7-9)	前 期 (R6.4-6)	前年同期 (R5.7-9)	来期見通し (R6.10-12)
全 体	▲25.5	▲26.7	▲26.9	▲13.9
製 造 業	▲27.9	▲30.4	▲28.7	▲13.3
非製造業	▲23.8	▲23.9	▲25.5	▲14.3

## 5 設備投資について

実施率は23.4%（前期比+3.5%）となり、2期ぶりに増加した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに増加した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

### ・設備投資の実施率

	当 期 (R6.7-9)	前 期 (R6.4-6)	前年同期 (R5.7-9)	来期見通し (R6.10-12)
全 体	23.4%	19.9%	20.4%	18.6%
製 造 業	27.3%	23.0%	24.6%	22.0%
非製造業	20.7%	17.7%	17.3%	16.1%

## 6 ヒアリング調査の概況 ※詳細はP16を御覧ください。

【現在の景況感】	
(一般機械器具)	食料品関連等で引き合いが増えてきており、徐々に良い方向に向かってきている。
(輸送用機械器具)	業界全体で受注量が落ち込んでいる印象であり、不況である。
(金属製品)	半導体製造装置関連の受注が低迷から脱し、景況感は良くなってきている。
(プラスチック製品)	住宅着工の落ち込みの影響で住宅設備関係の動きが鈍く、不況である。
(食料品製造)	足元で受注は堅調であり、景況感は良くなってきている。
(百貨店)	足元の売上げは前年並みであり、景況感は普通である。
(スーパー)	他社との差別化から業績は計画を上回る推移となっており、好況である。

【売上げ・採算】	
(電気機械器具)	市況の低迷から前期は大きく売上げ高が落ち込んだが、今期はやや回復基調にある。
(鋳鉄物)	価格転嫁はできているものの、受注が低迷しており、売上げ高は減った。
(食料品製造)	オリジナル商品を中心に受注が順調に増えており、採算性は良くなった。
(印刷業)	受注が低調に推移する中、コストの上昇が続いており、採算性は悪くなった。
(スーパー)	天候（猛暑、豪雨）の影響で衣料品の売れ行きが落ち込んだ。
(情報サービス業)	値上げにより売上げ高は増えているが、受注件数はほとんど変わらない。

【今後の見通し】	
(輸送用機械器具)	大手自動車メーカーの認証不正問題が落ち着けば景況感は良くなっていくとみている。
(電気機械器具)	半導体市況の底打ちにより、景況感は良くなっていくとみている。
(印刷業)	市場全体が縮小する一方でコスト上昇は続いており、明るい兆しが見えない。
(百貨店)	今後売上げは大きく増えることはなく、現状の水準が続くとみている。
(宿泊業)	旅行需要の回復で近隣の同業者も業績は良い様子であり、今後の見通しも明るい。
(旅行業)	需要は堅調であるものの、人手不足への懸念から先行きは不透明である。
(運輸業)	自社の経営資源（人材、車両等）は限られており、採算性を見極めながら受注を選別していく。